

えんばわ

78
号

Empowerment For All
エファジャパン

特集

戦後、子どもたちの
笑顔がある場所





世界ではロシア・ウクライナ戦争、イスラエルのガザ地区への侵攻、ミャンマー内戦など、戦争・武力衝突が続いています。今号は、30年間の内戦を経験したカンボジアからメッセージをお伝えします。

2025年は太平洋戦争終結から80年目の年。人は歴史から何を学ぶのか？ 一緒に考える機会となれば幸いです。

Vol.78 CONTENTS

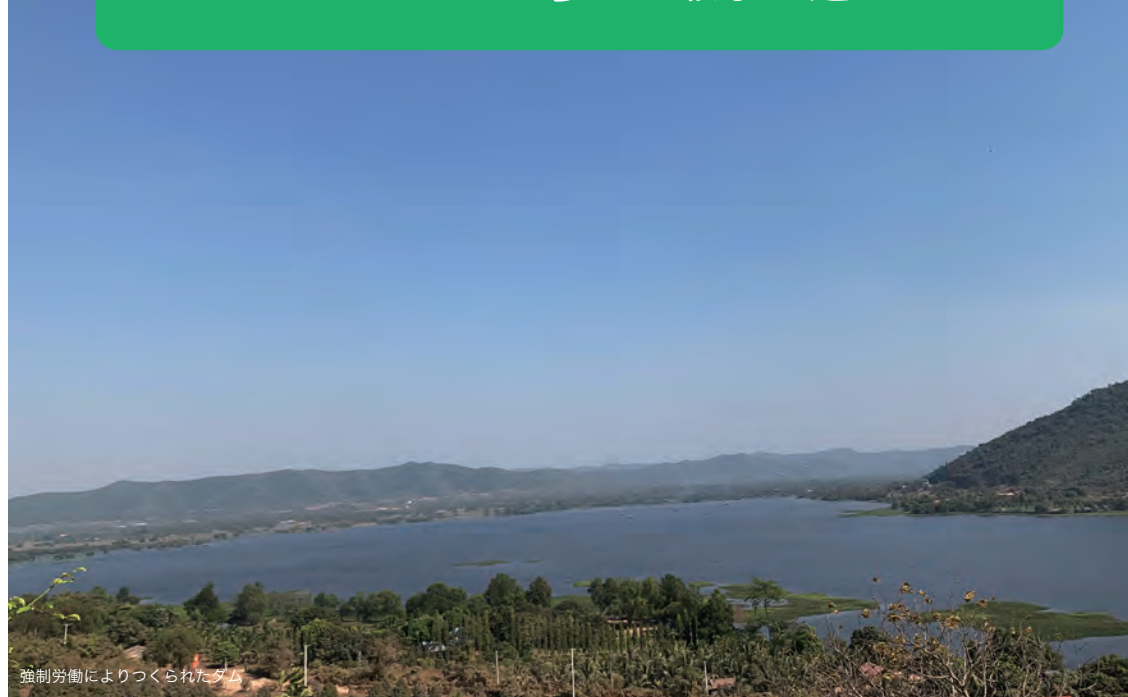
03	カンボジアが歩んだ戦争の道
05	サム・オーウン先生のライフストーリー
07	集い、学び、遊ぶ チルドレン・スタディ・クラブ
09	教育がもたらす平和
11	アジアまちかどライブラリー —能登—
12	アジアまちかどライブラリー —カンボジア—
13	アジアまちかどライブラリー —ラオス—
14	ムペアック(クメール語で「仲間」)

今号の表紙

カンボジア 2021年にチルドレン・スタディ・クラブを開館したときには、人前で話すことすらもためらっていた子どもたちが、いまではとびきりの笑顔をを見せてくれます。
(目次写真 チルドレン・スタディ・クラブ、先生と遊ぶ子どもたち)



カンボジアが歩んだ戦争の道



強制労働によりつくられたダム

カンボットの戦いの勃発地、そして内戦最後の解放地域

カンボット州は8つの郡、92の集合村に分割され、その中にある合計477の村から成っています。首都プノンペンからカンボット州の州都まで150キロ、車で約3時間の距離にあります。

カンボット州はカンボジアの中でも内戦の傷跡を深く残す土地です。1973年にアメリカ軍がベトナム戦争から撤退した後、カンボジアではカンボットの戦い（1974年2月26日〜4月2日）が勃発。アメリカの後ろ盾があったロン・ノルが破れ、中国から支援を受けたクメール・ルージュが勝利した土地です。

また、クメール・ルージュの支配下にあったカンボット州では全域で破壊と大量殺人が起こり、9万450人が虐殺された記録があります。

1979年から行われた教育セクターの建て直しも、1998年まで内戦状態にあったため、カンボット州の教育復興は遅れをとることとなりました。

戦争の負の遺産である地雷も多く埋められました。2023年、カンボジア地雷対策被害者支援局（CMAA）によりカンボット州は「無地雷州」となったことが正式に宣言されましたが、普段人が立ち入らない灌木林や草地などにごくわずかな残存リスクが残っている可能性がありますと指摘されています。



カンボット州



クメール・ルージュの少年兵

"Khmer Rouge Soldiers" by Alan C.

1970年3月のロン・ノル将軍によるクーデター、そしてその後1975年4月から1979年1月までカンボジア全土に恐怖政治を敷き国民の4、5人に1人が命を落としたポル・ポトによるクメール・ルージュ政権の台頭があり、1970年代よりカンボジア国内は混乱の一途をたどりました。

クメール・ルージュ政権の崩壊後も、政府軍とゲリラと化したクメール・ルージュとの間で戦闘は続きました。1991年にフランス・パリで「カンボジア和平パリ国際会議」が開催され、国内四派による最終合意文章（パリ平和協定）の調印に達しました。ここに20年に及ぶカンボジア内戦が終結したといわれていますが、国内の混乱は1998年4月にポル・ポトが亡くなるまで続きました。

現在56歳のサム・オーウンさんは、カンボジア・プーサット州の農村部で生まれ育ちました。8人兄弟の次男として生まれた彼の人生は、激動のカンボジア現代史と共に歩んできた道のりでもあります。



サム・オーウン先生（左端）

失われた幼少期の学び

1975年4月17日、クメール・ルージュが政権を掌握した時、オーウンさんはまだ6歳。この日から正式な教育を受ける機会を完全に奪われることとなります。

クメール・ルージュ統治下では、子どもたちは家族から引き離され、集団で管理されました。オーウンさんが所属していたグループには79人の子どもがおり、そのうち36人が女の子でした。小さい子どもたちも強制労働に従事させられ、過酷な生活を送りました。与えられた食事はお茶碗にわずかなおかゆだけの日もあり、栄養失調と病気により、79人のうち約20人の子どもが命を落とすという悲惨な状況でした。

家族とも離ればなれになり、食料不足の中で野草や木の実を食べて生き延びる日々が続きました。1979年1月7日、ベトナム軍によってクメール・ルージュ政権が崩壊します。隣国ベトナムが攻めてきたというニュースに国内は混乱。オーウンさんは村を離れ、避難生活を余儀なくされ、タイにある難民キャンプを何力所も渡り歩きました。最後にたどり着いたキャンプに落ち着いたときには、すでに11歳になっていました。

11歳で初めて触れた教育の光

難民キャンプで、オーウンさんは人生で初めて正式な教育を受ける機会を得ました。長い間奪われていた学びへの渴望は強く、困難な生活環境の中でも勉学に励み続けました。1984年に学校制度が正式に整備されると、小学校から段階的に学習を進めていきました。

教育の重要性を知ったオーウンさんは、やがて教師を志すようになります。1990年、高校卒業試験に挑戦し、460人の受験者のうち320人が合格する中で、さらに上位100人という優秀な成績で合格を果たしました。その後、教師養成課程に進み、最終的に18人という狭き門を突破して教員資格を取得しました。



差別との闘い

難民キャンプが閉鎖され、祖国に戻ったオーウンさんは仕事を探し始めます。しかし手に障害があるオーウンさんを一目見た面接官は「障害者に任せる仕事はない」と事務所を追い出しました。自らの辛い経験を糧に、障害がある子どもたちの教育支援に力を注ぐようになります。

現在、オーウンさんはエファアの支援を受けて、カンボジア農村部でチルドレン・スタディ・クラブの運営に従事しています。

オーウンさんは「教育は希望そのものです」と語ります。「どんなに困難な状況にあっても、学ぶことをあきらめてはいけません。私たちが経験した苦難を次の世代には味わわせたくない。すべての



子どもたちが教育を受けられる社会を作ることが、私の使命だと考えています」。

クメール・ルージュ時代の過酷な体験を乗り越え、教育者として、そして支援者として歩み続けるオーウンさんの姿は、教育の力と人間の強さを私たちに教えてくれます。今後もカンボジアの障害がある子どもたちの未来を照らし続けることでしょう。

チルドレン・スタディ・クラブ

ゼロから復興の一步を歩んでいるカンボジアですが、
障害がある子どもたちの教育復興はいまだに遅れています。

エファは現地カウンターパートCADDPと協働で、
障害児が通う「チルドレン・スタディ・クラブ(以下CSC)」を
運営しています。

本と本棚

本棚には絵本だけではなく、
勉強に役立つパズル
ゲームなどが置かれてい
ます。勉強の合間に本を
読んだり、遊ぶことがで
きます。

教室

教室と聞くと建物の
中を想像しますが、
民家の軒下などを無
料で提供いただき、
教室にしています。

野菜をつくっている畑

障害があってもできる仕事を
学ぶことを目的に、子どもた
ちの家に畑をつくっていま
す。植えた空芯菜が育ちすぎ
て大変になることも。無農薬
で育てているので、市場に
売って収入を得られるよう
になりました。

遊び場

教室の隣は遊び場
です。かけっこをしたり
して遊びます。「ロン
ドン橋落ちた」もお気
に入りのゲームです。

Fun!

タブレット

カンボジアの教育省がオ
ンラインで学習できるプ
ログラムを提供していま
す。勉強だけではなく、歌
や踊りの練習のためにも
使っています。ときにはカ
ラオケ大会になることも。

1,2,3...

集い、学び、遊ぶ場所

それがCSCです!

この特集では、子どもたちが
CSCを紹介します!!

野菜を つくっている畑

野菜の
お世話をするのが
好きなの!



ドゥッチ・チュナリーさん
ブンラニー・フンセン・ドント
ン 中学校2年生(14歳)

タブレット

勉強だけでなく、
歌や踊りの練習も
できるんだ!



ハブ・ブントーンさん
トラピアングトミアス
中学校1年生(12歳)

本棚の本

本から
たくさんのことを
学べるの!



ケン・ソチャイさん
ダムナックアンビル
小学校4年生(10歳)



子どもたちが考える戦争と平和

ケン・ソチャイさん

戦争を経験していませんが、人が痛い思いをすることは避けるべきです。自分が痛いのが嫌なら、人に痛い思いをさせちゃダメ。

ハブ・ブントーンさん

カンボジアの内戦のことは家族から聞いています。戦争は、人の命だけではなく、自然環境も破壊します。カンボジアでも多くの森が焼かれて、そこで暮らしていた野生の動物たちがいなくなってしまうと聞いています。教育、文化、宗教、経済の崩壊など人間が影響を受けるだけではなく、地球の環境などにも影響を及ぼしていることを忘れてはなりません。

ドゥッチ・チュナリーさん

カンボジアの内戦のことを考えると、復興には戦争の期間の倍

教育こそが平和を築く礎になる

以上かかるのではないかと思います。数年間にも及ぶ飢餓状態を経験すると、健康に戻るまでには時間を要します。また子どもたちを学校に戻すためには校舎を整えたり、先生を探したりしないといけません。また国境を接しているほかの国にも影響を及ぼしてしまいます。

CDDPのスタッフより

戦争は人類史において最も破壊的な行為の一つであり、社会のあらゆる側面に深刻かつ長期的な影響を与えます。戦争が子どもたちの教育に与える影響は計り知れません。カンボジアに限らずですが、紛争地域では学校施設が破壊され、教師が避難を余儀なくされ、子どもたちは学習の機会を奪われます。このような教育の中断の影響は、将来の社会復興に必要な人材の不足を招きます。

さらに、戦争によって生じた教育格差は、平和が回復された後も長期間にわたって社会に影響を与え続けます。内戦を経験したカンボジアから声を上げたい。「戦争は何も生み出さない」と。

「本を開くその手に、平和の希望がある」



今年、戦後80年を迎えた日本。戦争が終わっても、その痛みの記憶は、人々の心に深く残り続けています。エファジャパンが活動するカンボジアやラオスもまた、内戦や空爆で多くの命や日常が奪われ、社会の土台そのものが壊されてしまいました。それでも、人々は前を向いて歩き続けてきました。

私たちは、その歩みに寄り添いながら、教育こそが平和を築く礎になることを、何度も実感してきました。今も、世界ではウクライナ、ガザ、ミャンマーなど多くの国々で争いが止まず、子どもたちが大切な日常を奪われています。

けれど、教育には希望があります。過去の過ちから学び、他者への想像力を育み、暴力に頼らない選択肢を生む力があるからです。本を読むこと、先生や友だちと学び合うこと。その一つ一つが、争わない社会をつくるための、小さくても確かな一歩だと信じています。

争いを終わらせるのは武器ではなく、学び続ける人の意志です。エファはこれからも、教育を通して、痛みを越えて、誰もが尊重される平和な未来を、ともにつくっていきたいと思います。

そして、戦争の記憶が薄れつつあるこの日本からも、平和を願う声を届け続けていきます。

私たちの一歩こそが、希望を拓く力になると信じています。



アジア

カンボジア

ライブラリ

まちかど

パジャマはカジュアルな普段着

カンボジアの首都プノンペンから離れると、町中や村々でパジャマを着ている女性を見かけます。派手な色、ブランド模様、お花柄など、さまざまなパジャマ姿です。

それを見るたびに、なぜ普段着にパジャマを着るんだらう？ と、不思議に思うのですが、現地の人に尋ねてみると、「暑さと日差しから身を守るため、安価で洗いやすいから」と答えてくれました。

カンボジアで見られる「パジャマ」とは、実際には私たちが寝るときに着る「パジャマ」と同じものではなく、上下セットの薄いコットンやポリエステル（上下お揃いの柄のセットアップ）を指します。現地では「サッバイ・スオット」と呼ぶ人もいます。

でもやはり、それはパジャマにしか見えません。

（プロジェクトコーディネーター ミン）



アジア

能登

ライブラリ

まちかど

能登のあばれ祭り

石川県能登町で毎年7月に開催される「あばれ祭り」は、400年以上の歴史を誇る勇壮な火祭りです。

私は初日の7月4日に見に行きました。巨大松明に火がくべられ、火の粉が飛び交う中をキリコ（大きな灯笼型の行灯）が乱舞します。また、火の粉を浴びると御利益があるとされています。

炎が燃え盛るほど「荒ぶるほど神に喜ばれる」と云われ、炎と人々の熱気の一体感は最高潮に達します。

今年は40町内すべてのキリコが運行されました！「この祭りがあるから帰ってくる」能登町を離れた若者の言葉です。夜空を焦がす炎と太鼓の音が響き渡るこの祭りは、能登の夏の風物詩となっています。伝統と魂が燃え上がる、迫力満点の祭りです。

（プログラムマネジャー 鎌倉幸子）



ムペアック

クメール語で「仲間」

エファをご支援
いただいている方々を
ご紹介します。

映画監督・テレビディレクター

かね たか けん じ
金高 謙二 さん



6月21日に開催したエファシンポジウム2025では、映画「疎開した40万冊の図書」の上映と、製作した金高謙二監督のトークが行われました。

本作は、戦時下の日本において、貴重な図書を守り抜こうとした人々の姿を描いたドキュメンタリーであり、「本を次世代に残すこと」の意義を改めて問い直す作品です。東日本大震災の影響で、今でも帰還困難区域が残る福島県飯館

村や、2003年春、イラク戦争開戦の空爆から本を守るため、3万冊もの蔵書を自宅へ運び避難させた図書館員アリア・ムハンマド・バクルさんのインタビューも紹介されています。

エファが取り組んできた「本を守り、届ける」活動とも重なる映画を通じて、教育と文化を支える意義について、皆さまと共有できればと思います。

せっかくなのでこの映画を撮るきっかけや、疎開させてまで本を残そうとした人々の思いについてお話をいただきましたと打診したところ、ご快諾をいただきました。

金高監督からは「映画の最後にもあったように、文



化財を残す一番の方法は戦争をしないこと」という強いメッセージをいただきました。

アジア ラオス ライブラリ



ビエンチャンの朝市

ビエンチャンの朝市は、早朝4時〜5時頃から動き始めます。日が昇る頃にはすでにたくさんの人が集まり、7時頃が一番にぎやか。

新鮮な食材は「早い者勝ち」なので、朝早く訪れるのがおすすめです。

市場には、もち米やハーブ、香草などラオス料理に欠かせない食材がずらりと並びます。

生きた魚や鶏、肉、色とりどりの野菜、果物、香ばしいお菓子や惣菜まで、見るだけでも楽しい品ぞろえです。

(プロジェクトコーディネーター ミン)



本を届け続ける

「エファパートナー」になってください

子どもたちの命を削る 『本の飢餓』をなくしたい



エファパートナーとは月々1,000円からの支援で、エファが取り組む「本の飢餓」の撲滅に向けた活動を応援いただくマンスリーサポーター制度です。寄付金は、その時々にも最も必要な事業・活動へ使わせていただきます。

パートナーの皆さまには、エファが目指すビジョン、「すべての子どもたちが可能性と創造性を発揮し、『自分ものがたり』を描ける社会」の実現に向け、子どもたちの成長や社会の変化を共に見守っていただき、また、皆さまご自身の「自分ものがたり」も描いていただくことを目指していききたいと思います。

私たちと一緒に、この世界を「本の力」で変えていきませんか。

2025年も
私たちは本を届ける

未来へ読み継ぐ、
その手に届けるために



パートナー特設サイト

お申込み・詳細は
特設サイトをご覧ください。



<https://www.efa-japan.org/partner/>

えんぱわ 通巻78号(2025・9・秋)

2025年9月15日発行

発行人：伊藤道雄

編集協力：(株)MAG MAG、蒔田清二

発行所：特定非営利活動法人エファジャパン事務局

〒102-0074 東京都千代田区九段南3-2-2 九段宝生ビル3階

TEL:03-3263-0337 FAX:03-3263-0338 Email:info@efa-japan.org

<https://www.efa-japan.org/>

※エファジャパンは、全国の地方公共サービスに携わる人たちが応援する、国際協力NGOです。アジアの子どもたちへの教育文化支援・福祉支援を行っています。

※認定NPO法人であるエファジャパンへのご寄付は、税制優遇の対象です。